



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	吉野石膏ホールディングス株式会社 札幌SP 新築工事	階数	地上2階建
建設地	札幌市東区東雁来9条3丁目1-1	構造	S造
建物用途	事務所・工場	平均居住人員	6人
竣工年	2024年6月 予定	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
敷地面積	5,440 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	2,715 m ²	評価の実施日	2023年7月26日
延床面積	2,879 m ²	作成者	
		確認日	2023年7月26日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆ B-

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

SDG	スコア
3(保健)	1.9
4(教育)	1.8
5(ジェンダー)	2.7
6(水・衛生)	2.1
7(エネルギー)	2.5
8(経済・雇用)	2.0
9(インフラ)	2.6
11(都市)	2.2
12(生産・消費)	2.1
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.8
17(実施手段)	2.6

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 2

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.69**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

<p>総合 自社商品の倉庫の計画である。倉庫としての使い勝手、冬期の卓越風等を考慮して配置を決定した。また、建物のボリューム感は、既存倉庫よりも保管容量を増大させることを念頭に、搬入出車線の動線も踏まえて決定した。</p>	<p>A 省エネルギー 外壁の下地にフェノールフォーム断熱材を採用することにより、外皮の熱貫流率の低下を意図した。また、倉庫照明はLEDの高天井対応型を選択し、照明の消費エネルギーの削減を計画した。</p>
<p>B 省資源等 材料のロスが極力少なくなるよう、今後施工部門とも連携を図り、取り組んでいく。</p>	<p>C 緑化 市条例にて定められている以上の緑化を計画した。建物の用途上、視界を遮らないように低木を中心とした計画である。低木の密植と生垣をベースとして計画である。</p>
	<p>D 雪処理 敷地が5400m²ほどあるので、冬期の堆雪スペースを数か所に分散するよう計画した。建物北側には、一定量の雪を溜めておいても問題ないであろうスペースを計画した。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 省エネ								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 屋光利用								
1 屋光率								
2 方位別開口								
3 屋光利用設備 省エネ								
3.2 グレア対策								
1 屋光制御 省エネ								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								

4.3 運用管理				2.0	0.20		-	
1	CO ₂ の監視		-	1.0	0.50		-	
2	喫煙の制御		-	3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1
1 機能性				3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40		-	
1	広さ・収納性		収容力の高い倉庫が付属	4.0	0.33		-	
2	高度情報通信設備対応		-	3.0	0.33		-	
3	バリアフリー計画		-	1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30		-	
1	広さ感・景観		-	3.0	0.33		-	
2	リフレッシュスペース		専用休憩室完備	5.0	0.33		-	
3	内装計画		-	3.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		-	3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.7	0.30		-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				1.6	0.20		-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		-	2.0	0.20		-	
3	電気設備		-	1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		-	1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		-	1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.5	0.30		-	3.5
3.1 空間のゆとり				2.6	0.30		-	
1	階高のゆとり		-	1.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		0	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			事務所2900N 倉庫29400N 3/6	5.0	0.30		-	

3.3 設備の更新性				3.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性		—	2.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		ビット内配管	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		OAフロアの採用	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.39		-	2.0
1	生物環境の保全と創出	緑化	—	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	—	2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	—	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.3
LR1 エネルギー				—	0.40		-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.57 品確法= 1	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.69 —	4.1	0.50		-	4.1
4	効率的運用			2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性が確認できる。	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	1.0	0.50		-	
集合住宅の評価								
4.1	モニタリング	省エネ	—					
4.2	運用管理体制	省エネ	—					
LR2 資源・マテリアル				—	0.30		-	2.8
1	水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1	節水		—	1.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1	材料使用量の削減	省資源	—	3.0	0.14		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.29		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.29		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	-	-		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	—	3.0	0.29		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止		省資源	燃焼機器の使用なし	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		敷地外に車輛の駐車を抑制	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	1.00		-	
2	振動		-	-	-		-	
3	悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明なし	4.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要

建物名称	吉野石膏ホールディングス株式会社 札幌SP 新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-
建物用途	事務所工場				
延床面積	2,879.0 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 22.4 最低点 6.4)		合計 15.8点 /22.4点	
Q1 温熱環境	スコア 0.3 /0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 0.5 /1.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 8.2 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 1.6 /4.0
B 省資源等 (最高点 24.3 最低点 8.7)		合計 14.4点 /24.3点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.4 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.6 /2.9	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.9 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.6 /4.4
C 緑化 (最高点 19.2 最低点 3.8)		合計 7.1点 /19.2点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.4 /5.9	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.1 /7.9		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.6 /2.9		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数